

民生病院常任委員会審査概要報告書

委員長 中村 清志

- I 開催年月日 令和元年 6 月 24 日（月）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 11 時 14 分
III 出席委員等〔出席委員〕◎中村 清志 ○曾田 康司 山口 泰祐
石須 大雄 藪中 一夫 吉田 健太郎
本田 利麻 高畠 義一
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔議長〕狩野 安郎
〔副議長〕坂林 永喜
〔説明員〕別紙名簿のとおり
〔委員外議員〕角田 悠紀 林 貴文 高岡 宏和
酒井 善広 福井 直樹
〔事務局職員〕安東 浩志 松本 武司 室川 弘昭
堀田 寛之
〔傍聴者〕6 名

IV 審査の概要

1 付託議案について

- 議案第 93 号 令和元年度高岡市一般会計補正予算（第 1 号）
のうち本委員会所管分
議案第 94 号 令和元年度高岡市介護保険事業会計補正予算（第 1 号）
議案第 95 号 令和元年度高岡市高岡市民病院事業会計補正予算（第 1 号）
議案第 101 号 高岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例
の一部を改正する条例
議案第 102 号 高岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定め
る条例の一部を改正する条例
議案第 103 号 高岡市国民健康保険税条例の一部を改正する条例
議案第 104 号 高岡市介護保険条例の一部を改正する条例
及び
議案第 106 号 高岡市火災予防条例の一部を改正する条例

以上、予算議案 3 件、条例議案 5 件の計 8 件について、審査の結果、全会一致で、いずれも原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑等は次のとおり。〉

(以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示)

【議案第 93 号のうち、児童福祉費について】

- 令和元年 10 月から実施される幼児教育・保育の無償化は 3 歳児から 5 歳児までに限定され、国の制度上、3 歳未満児の保育料は、非課税世帯もしくは 3 人目の児童の場合のみ無償である。本市としての、3 歳未満児の保育料についての今後の方針や考えは。
- △ 子育て支援を充実させていく上で、まずは現行の新制度を、より良い制度として定着させていくべきと考えており、全国的な動向や県内での議論、全国市長会での議論などを注視したい。
- 令和元年度から子ども医療費助成に対する国民健康保険の国庫負担金の減額措置が一部廃止されたことで、国保会計で財源が生まれたと認識している。そのお金をどのように活用していくつもりか。
- △ 地方単独事業で医療費助成を行った場合に、国民健康保険では国庫負担を減額調整する措置が執られているが、その分については、県の補助金や一般会計から補てんされてきた会計上の理由があることから、国保会計の中で柔軟に使える財源が増えたという認識はない。一般会計の中で、余裕が生まれた分をどのように使っていくかということに関しては別途議論が必要である。
- 幼児教育・保育の無償化を進めるに当たり、その対象とならない世帯に対して、子育て支援という形で財源を有効活用していただきたい。(要望)

2 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔福祉保健部〕

- 。平成 30 年度高岡市介護保険事業実施状況について

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

〔市民病院〕

- 。平成 30 年度高岡市高岡市民病院事業会計決算の概要について

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

3 閉会中の継続審査について

本委員会の所管事項について、閉会中も継続して調査する必要があるため、会議規則第 104 条の規定により、委員長から議長に継続審査を申し出ることとした。

4 その他

。 次回の常任委員会の開催について

7 月 16 日（火）午前 10 時に開催することが報告された。

。 行政視察について

7 月 30 日（火）から 8 月 1 日（木）に実施することが報告された。

〈 委員から次のような質疑等があった。 〉

【幼児教育・保育の無償化後の副食費等について】

○ 令和元年 10 月からの幼児教育・保育の無償化に伴い、国の指示で副食費を月額 4,500 円以内にしなければいけないと聞いている。市立保育園の副食費は 4,500 円以内に収まる予定か。

△ 副食費の月額 4,500 円はあくまで目安であり、各園で金額を設定してもらうことが大前提となる。市立保育園の副食費については、現時点で 4,500 円に収まっていないが、試算では、食事の提供方法や材料の仕入れを工夫することで、4,500 円に抑えることも可能と考えている。例えば、現在おやつに 200ml の個別パックの牛乳を提供しているが、1L パックでコップに移し替えて提供したり、仕入れ先によって価格差の大きい魚介類（えび、いか、さけ）を共同購入したりすることで、費用を抑えることができる。

○ 私立保育園等では、国産肉や地元食材を使用するよう市が指導していることもあり、副食費を 5,000 円以上徴収しないと難しいとの声が上がっている。4,500 円以内に抑えるには、輸入肉や冷凍食品を使わざるをえず、食育に取り組んできた私立保育園は大変困っているようだ。市は、私立保育園にも副食費を月額 4,500 円以内にしよう指導しているのか。

△ 私立保育園についても国が示した副食費はあくまで目安であり、月額 4,500 円に抑えないといけないといった指導は行っていない。食材の産地やブランドにこだわりを持ち、食育を行いたい園については、保護者の理解を得たうえで、月額 4,500 円を超える副食費を設定することは問題ない。

○ 私立保育園に対して副食費の取り扱いについての説明会等を行っているのか。

△ 副食費の取り扱いを含め、幼児教育・保育の無償化に伴う事業者向けの説明会をこれまで 2 回開催している。今後も制度開始に向け、必要に応じて説明会を開催し、制度に関する理解を各事業者に深めていただきたい。

○ 公立保育園では地元食材を積極的に利用しているのか。

△ 食育の一環として、毎月 19 日に高岡キッズボールや平田えびを使用したかき揚げ、手作りコロッケなど地元食材を利用した献立や食育にちなんだ献立を提供している。引き続き、地元食材を積極的に利用していきたい。

【保育士の人材確保について】

- 保育士の人材確保について、先日の当局の答弁の中で、需要の高い保育園については特別に定員の増加や保育士の確保を働き掛けるとあったが、働き掛けのみでは、なかなか問題の解消には至らないが、どのような考えを持っているのか。
- △ 地域性や保育教育の方針によって、入園希望の多い園については、保育士の定員増をお願いしていきたい。新卒保育士の確保については、公立、私立問わず、どの園も厳しい状況である。そのため、国や県では、保育士の補助的な業務につくことができる子育て支援員という制度の活用を進めている。市としてもこのような制度に目を向けていきたい。
- 公立保育園の試験が先にあるため、私立保育園に人材がまわってこないといった意見があると聞いている。保育士の採用試験の実施時期を工夫できないか。
- △ 保育士の採用試験の実施時期については、元々私立保育園の方が早くに実施していた。しかしながら、採用を決定しても公立保育園での採用が決まると辞退されてしまうといった事態が相次ぎ、私立保育園から採用試験を早めてほしいといった声が挙がったため、平成 29 年度から私立保育園に先んじて採用試験を実施している。

【時間外保育の需要増について】

- 時間外保育の需要が増えていることに対して、どのような支援を行っているのか。
- △ 国の制度で特別保育に対する支援は手厚くなってきており、それに合わせて、市が負担する分も増えてきている。市単独の補助金の見直しも行っているが、国の制度が充実していることを踏まえ、全体のバランスをみながら特別保育に対する支援を引き続き検討していきたい。

【介護保険事業について】

- 介護予防事業を持続可能なものにしていくために、介護予防・日常生活支援総合事業を充実させていくことが必要であると考えているが、現在の取り組みと今後取り組みたいことは。
- △ 現在の介護予防・日常生活支援総合事業の中にある一般介護予防事業で、ふれあい・いきいきサロンや筋力アップ教室など多様なサービスを提供し、高齢者が要介護状態になることを予防する事業を行っている。これからは、運動機能の向上や閉じこもり防止のための「通いの場」づくりが重要であると考えており、高齢者が容易に参加できる身近な場で介護予防活動に取り組めるよう事業を展開していきたいと考えている。

【ダヴィンチ導入による効果は】

- 手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入は若い医師の確保につながるのか。

- △ 泌尿器科については、富山大学の医局から医師を派遣してもらっている。はっきりとした確約を得られたわけではないが、ダヴィンチが導入されれば、医師の派遣を増やしてもよいという話をいただいている。泌尿器科において、富山大学の関連病院の中でダヴィンチを導入しているのは本院が初めてということもあり、若い医局員も手術支援ロボットがある病院に赴任したいという希望が強いと聞いており、医師獲得に好転していけばと考えている。
- 前立腺がんの手術を年間 40 件行えば、利益がダヴィンチ導入のコストを超えるとのことだが、ダヴィンチの導入後、年間 40 件以上の手術を行える可能性は高いのか。
- △ 平成 29 年度の前立腺がんの手術件数が 15 件であり、30 年度はそれ以上であった。また、直近の半年間でも 10 件以上の手術があった。前立腺がんの治療は手術療法以外に放射線治療も行われており、特に高齢者の場合、放射線治療を行うケースが多くなっている。ダヴィンチの導入により前立腺がんの患者を集めることができれば、手術療法以外に放射線治療の患者も増やすことができ、手術件数が 40 件に満たなくても大きな経済効果があると考えている。
- ダヴィンチの導入費 3 億円の地方債の償還年数は。また、金利は何%か。
- △ 企業債として起債する。2 年据え置きの 10 年償還であり、利息を 10 年間支払い、元金を 8 年間で返済する予定である。金利は、0.4%程度になると考えている。

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

民生病院常任委員会 当局説明員（24名）

市民生活部長	梅 崎 幸 弘	市民病院長	藪 下 和 久
市民生活部次長 地域安全課長・環境政策室長	堺 啓 央	市民病院事務局長	崎 安 宏
共創まちづくり課長	室 谷 智	総務課長 栄養管理課長	新 田 裕 子
共創まちづくり課 多文化共生室長	寺 口 昌 代	医事課長	長 田 由 美 子
男女平等・共同参画課長	早 苗 伊 紀 子		
市民課長	赤 阪 典 子	消防長	寺 口 克 己
環境サービス課長	柴 野 泰 彦	消防本部次長	浦 島 章 浩
		総務課長	有 澤 智 文
福祉保健部長	鶴 谷 俊 幸	予防課長	山 口 喜 代 治
福祉保健部次長 参事	西 本 幸 夫	警防課長	布 橋 隆 男
社会福祉課長	山 本 真 弘	通信指令課長	川 端 芳 紀
子ども・子育て課長 保育・幼稚園室長	村 上 彰		
高齢介護課長	森 川 朋 子		
保険年金課長	徳 市 直 之		
健康増進課長	山 本 美 由 紀		